

## 第七回北九州文学協会文学賞(詩部門)入賞のお知らせ

北九州市制50周年記念

金谷晴美様

佳作

作品名

八十路のジャンプ

このたびは第七回北九州文学協会文学賞「北九州市制50周年記念」にご応募いただきまして誠にありがとうございました。

厳正なる選考の結果、上記の通りとなりましたのでお知らせいたします。

なおこの結果は第七回北九州文学協会発行「ひびき」に掲載され、平成26年1月に「入賞作品集」として発行されます。応募者、入賞者には全員に無料で1冊配布されますが、複数入用の方には1冊700円、10冊以上入用の方には1冊500円で販売致します。ブックセンター・クエスト外でも販売いたします。

また表彰式等につきましては後日詳細をお知らせいたします。

まずは入賞おめでとうございます。

何か不明な点がございましたら、担当の者、下記へお問合せ願います。

〒805-0067北九州市八幡東区祇園3-3-13

TEL093-662-6800 若杉 妙

平成25年10月17日

北九州文学協会

会長 後藤みな子



## 八十路のジャンプ

金谷 晴美

私が歩いて付けた足跡  
地上に印した足跡で  
地球を塗り潰してみたら  
どれ位の面積になるだろう  
想像は果てしなく飛躍する  
大股に闊歩していたあの頃より  
歩幅は少し狭くなったが  
元気でいなくちゃ

何時の間に耳が壊れていた  
聞こえたり聞こえなかったり  
言葉の行列が乱れたり  
頭の中のパソコンは  
途轍もない文字に変換する  
勘違い 聞き間違いと  
時間が過ぎて赤面し  
苦笑いも照れ臭いものだが  
それを許してくれる人達がいる

お喋りが苦手でも  
笑みは誰も持っている  
笑みは心を許しそして人と結ぶ  
また逢いたいと希望が生まれる  
言葉を出さなくちゃ  
言葉は帰って来ない  
待つ時間なんて無いよ  
好奇心旺盛だから

足が動かなければ手がある  
手が使えなければ声がある  
声を失ったら瞳がある  
瞳が暗くなれば心を持つ器がある  
心が痛んだら  
幼いころ母が唱えたあの呪文  
「痛い痛い飛んで行け」  
歳月に器は草臥れて行くけれど  
流れる血は途切れない  
時には戸惑い時には細々と  
ゆっくりと 少しずつでも  
此処に居るって証しは  
待ち受けてくれるアンテナに  
発信しなきゃ

八十路までの道程は  
物差しでは測りきれない  
甘くて 辛くて  
苦しくて 楽しくて  
そして貴方がいた  
記憶は歳を取らないけれど  
色あせながら消えて行く  
城も器も古びながら  
期限付きの時間を繋ぎ止め  
体の動きが鈍くなっても  
貴方に恋をしている私

生きているっていい  
生きるって素敵だな